

進路かわら版 第4号

進路指導部 令和4年9月7日発行

いよいよ 大学入学共通テスト出願

9月は受験生にとっては共通テスト出願の月です。いよいよ本格的に「受験」が始まります。ここからは自分との戦いです。1月の共通テストに自信を持って臨めるよう、自分の可能性を信じて充実した時間にしていきましょう。また、大学の募集要項や赤本も順次取り寄せましょう。

◇共通テストを振り返る。～2022年度入試を踏まえて 英語編～

昨年度の3年生の成績

平均点	2022年度	
	6月進研模試	共通テスト本番
Reading	49.3	63.9(+14.6)
Listening	54.1	61.8(+7.7)

左の表は昨年度3年生のもので、本気でやり続ければ数字となって現れる人が多くいます。日頃の学習や特別編成授業でのがんばりもあり、共通テストを比べても、全国平均を上回る成績を残すことができました。リーディングで出題される語数が第1回共通テストに比べて約450語増えましたが問題の出題形式に変化はなく、リスニング・リーディングともに表やグラフなどを使い、基礎基本を基に思考力・応用力を問うという共通テストの趣旨に沿った問題が出題されました。

リスニング

出題形式に大きな変更はなく、設問総数も同じでした。アメリカ人を中心に多様な話者が起用されていましたが、音声は全体的に聞き取りやすかったと思われます。イラストやグラフ、表が多数使用されており、単に英語を聞き取ることができればよい訳ではなく、選択肢や図表を素早く読み取る力など複数の技能が求められました。

第1問「短発話・英文／イラスト選択」発話の概要や要点を把握する。

第2問「短い会話・イラスト選択」

第3問「短い会話・Q&A選択」聞き取った複数の要素から選択肢を総合的に判断する。ここから全て音声は1回読み

第1問～第3問に全体配点の約60%が与えられている→ここは確実に取るつもりで!

第4問「モノログ・イラスト並べ替え、図表完成／条件選択」複数の情報を整理し、組み合わせで判断する。

第5問「講義・ワークシート完成」概要や要点をとらえ、その情報とグラフから読み取れる情報を組み合わせで判断する。

第6問「会話文・Q&A／内容把握」Bでは昨年と違い、四人の発話者の立場が明確で声も聞き分けやすかった。

第4問～第6問で勝負!

リーディング

出題内容は、動物園のウェブサイト、図書館利用に関するポスター、家電購入に関するブログ記事など身近な話題を扱った英文から、ある発明家の伝記文、プラスチックのリサイクルといった説明的文章まで多様な題材でした。多くの大問で複数の情報源から概要・要点を把握する力が求められました。英文の語数は、第5・6問では約640～680語が出されるので、普段から時間を計りながら(各15～20分)このくらいの分量を読みこなすトレーニングが必要です。

第1問「情報・意図の読み取り」**速く正確に**、必要な情報を読み取る。

第2問「概要・要点の把握、情報整理」概要や要点の把握と、複数の情報の整理をする。

第3問「短い文章の概要把握」文章の書き手の心情を考えたり出来事の順番や内容を解答する。

第4問「複数素材からの情報読み取り」筆者の意見の把握や、英文と図表の情報を使って、家電の購入先を判断する。

第5問「概要把握、要点整理」プレゼンテーションを完成させる問題。出来事を時系列に並べる。

第6問「概要・要点・論旨の把握」文章の論理展開を把握し、全体像を理解して要約する。

最後に

夏休みも終わり、共通テスト対策に拍車がかかってくると思います。以下に今後も継続してもらいたいことを記します。

① 単語・熟語は徹底的に

大問5・6に時間を使えないのは、語彙力のない証拠と言っても過言ではありません。今の段階でスピードが思うように上がらなくても、きちんと読めていれば(問題ができていれば)今後必ずスピードは上がってきます。焦って大問6まで解いたにもかかわらず正答率が低い、という状況を避けるべきです。スピードは後からでもついてきますが、正確さについてはきません。とはいえ、最後にものを言うのは単語・熟語です。最後の最後まで粘り強くやり続けましょう。

② 問題集は学校の授業で使っているものを丁寧に

今から新しいものに手を出すより、今までやってきた問題集・模試・教科書に再度取り組み、100%の理解を目指した方が知識を確実に身につける近道です。わかった気になるのではなく、本当の意味で理解してください。

実戦で実力アップ 模試を徹底活用

先月末に返却された7月の模試の復習は終わりましたか？模試を100%活用できているでしょうか。

〈3年生〉

■連続模試で力をつける！

3年生の秋は模試の連続です。「ここも、ここも・・・分かってなかった」と凹(へこ)んで自信をなくして不安になる人も出てきそうですが、逆です。「分からないところが分かった」「また穴を減らせる」と思いましょう。模試はあくまで模擬、まだ本番ではありません。また、この夏の頑張りがすぐに結果に現れるわけでもありません。「これさえやれば大丈夫！」といった甘い言葉に惑わされずに、辛抱強くやっていきましょう。

ここでは模試活用の基本的な心構えを紹介します。

- ①志望校の合格最低点と合格平均点を確認する。
- ②各科目毎に目標得点を立てる。その際、模試で分かった弱点の得点力アップで上積みできる分を計算する。
- ③次の模試を短期目標にして、各科目毎に基礎事項の学習計画を立て、弱点強化を図る。
- ④模試明けの週は、模試の復習をルーティンワークにする。次の例のように自分に決め事を設けてやるとよい。
 - [a] 放課後は模試の復習(先生に質問できる環境なので)、家では自分の勉強と切り替える。
 - [b] 曜日毎に教科を決めて復習する。(例 日:英語 月:数学 火:国語 水:地理 木:物理 金:化学)
- ⑤記述問題の解き直しは、大学の個別試験を見据え、添削まで含めて丁寧に取り組む。
- ⑥上記の手順を自分で決めたら迷わずにやる。



〈1・2年生〉

■既習事項と未習事項を見分けられる？

同じ不正解問題でも、未習事項はできなくてもがっかりする必要はありません。それはこれからできるようにすればいいのです。

今すぐ復習すべきは、既習事項です。小テストや演習、定期考査などでも取り組んだはずの不正解問題を放置して先に進んだらどうなるのでしょうか？分からなかったことさえ忘れてしまうのでしょうか？それとも、分からなかった部分を前提に次の単元が展開する場合、分からない部分がどんどん積み重なってますます苦しくなるのでしょうか？後になってから広大な「分からない」砂漠に行くより、振り返れば道があり、「この問題、前にやったところだ！」と「分かる」森に行く方が歩きやすいと思いませんか？

模試に限らず普段の学習であっても、「分からない、分からない」と少タイライラしながらも予習をし、授業で予習の疑問を解消する。さらに、さっとでも復習しておけば、知の砂漠化を防ぎ、道に迷わず目的地にたどり着ける知の森を維持できるでしょう。しかし、予習はおろか、授業中もぼんやりしていたら砂漠化はあっという間に進みますよ。

次に先輩からのメッセージを紹介します。君たちと同じように悩んだり、後悔したり、でも諦めずに頑張った先輩たちの率直な気持ちです。模試で成果を出したい人はぜひ参考にしてみてください。



先輩から後輩へのメッセージ

～2022年度共通テスト受験アンケートより～

- 3年生の半年では埋められない部分がたくさんあって、1・2年生の頃から少しずつでいいから目標を持って取り組んでいくのが良い。
- 残り期間が少なくなると、すごく不安になる。やれることはやろうと前日まで頑張ってお基礎のプリントをやったら、ちょうどその問題が出た。自分が頑張ったと思えるノートやワークがあると自信が持てると思う。
- 早めに自分の勉強スタイルを見つける。毎日のルーティン、形があるとならくなる。
- 模試の問題で形式に慣れておくこと。慣れるだけで点が取れるようになる。
- 英語のリスニング教材を買ってやる(単語と並行して)。聞く量・話す量・見る量を増やして生活の一部にする。
- 演習をして間違えたところを確認する、の繰り返しがいいと思う。直前になっても特別やり方を変える必要はないと思う。
- 継続が本当に大事で、勉強は早い時期から頑張ってきた人ほどどんどん有利になる。
- 毎日コツコツやれば報われると思う。
- 1年前とは形が大きく変わったように感じた。来年度はどうなるか分からないが、様々な問題の形に慣れるのが良いと思う。
- 全教科難化すると思ってしっかり勉強しよう。
- 思っていたよりも早く当日が来る。周りのゆっくりとした時間の流れに流されないでほしい。
- やってきたことしか出せないから頑張るべき。
- 自分にとって習慣を作る(勉強・起床・就寝・自由時間)。やっている自分に満足しない(時間だけ意識して理解が不十分にならないように)。
- 最後まで諦めないで勉強してほしい。模試の自己採点をしっかりする。
- 「進路かわら版」や「不合格者体験記」などをじっくり読んで、受験に対してどのようなことを注意したり意識すればよいか、自分の頭で整理して理解する。
- 自分のできないところときちんと向き合う。
- 国数英はすぐには身につかないのでコツコツと毎日を少しでも勉強すべき。
- 共通テストは短期記憶だけではどうにもならない。常に自分の最低ラインを意識して、ゴールに向かって全力を尽くす。
- しっかりと勉強してきた江南生なら自分ができない問題はみんな解けないと思った方がよい。
- 英語が大事と言われるがそのとおり。英語も大事ですが、数学ができるか否かでかなり幅が変わるので、苦手な人も頑張らしましょう。
- 予想問題と違うことがあるので焦らない。
- 古文単語や英単語は1日100個といわず20個でもいいので毎日やる。継続したものの勝ち。

万全な状態で受験に備える～体調管理の大切さ～

2学期が始まり3年生はいよいよ受験本番を迎えようとしています。受験勉強は順調ですか？3年生は「勉強方法」や「勉強時間」などの対策はもう確立していると思いますが、受験勉強がスムーズにはかどるために必要なことは、万全な体調の維持です。体調管理を無視した勉強中心の受験対策ではむしろ逆効果を生むことになります。



【睡眠の重要性】

特に睡眠は重要です。高校生であれば毎日8時間前後の睡眠が適しています。時間に追われている受験生にとっては「そんなに寝たらもったいない」と感じるかもしれませんが、十分な睡眠時間を確保することで「記憶・知識の定着」が得られます。徹夜など睡眠時間を削った勉強を数日続けて実行する受験生もいますが、その場合脳や体に疲労が残ってしまい「長時間勉強しているけど、頭に入っていない」という状態での勉強となってしまいます。

このように睡眠不足は「思考力や記憶力、そして集中力の低下」を及ぼします。また、「精神的に不安定になること」も生じます。受験を控えた3年生にとって精神面の安定は非常に重要です。睡眠不足によって不安や苛立ち、焦りなどの感情が増幅すると勉強がはかどらなくなります。もし、勉強に対する不安や焦りが大きくなった時は、「勉強方法」を見直すだけでなく、睡眠時間をはじめとした生活リズムも見直してみるようにしましょう。

【質のよい睡眠で朝型リズムの確立、そのためのよい就寝サイクル】

徹夜など睡眠時間を削って勉強する人は夜型といえるでしょう。しかし、受験を控えた3年生こそ日常から朝型リズムを身につけておくべきです。なぜなら、試験本番は朝から行われるからです。夜型リズムの人が試験当日だけ早起きしても、脳や体は朝型の起床時間に適応できるはずがなく、本来の実力を発揮できない可能性が高くなります。

朝型リズムの確立のためには就寝時間のコントロールが必要で、そのためには前日からの準備で就寝前の眠りやすい環境を整えることが大切です。就寝前に効果的なのは、深部体温（脳や臓器など体の中心の機能を保つ体温）を高めてからゆっくり下げていくことです。具体的には寝る1～2時間前にぬるめのお湯で入浴したり、温かい飲み物を飲んだりして深部体温を上げます。その後すぐに寝るのではなく、読書をしたり好きな音楽を聴いたりしながら深部体温を下げていけば眠りにつく準備が整い、自然な眠気でスムーズに眠ることがができます。そうすることで翌日のすっきりした目覚めに繋がり、集中力も高まり万全な体調の状態ですべて試験に臨むことができます。

また、身体を動かすことも有効です。軽い全身運動によって全身に血液が行き渡り、脳や体を覚醒させてくれます。そして心身をリラックスさせ、身体的な疲労から自然な眠気を引き起こし、質のよい睡眠に繋がります。体力がつけばつくほど集中力も高まることを付け加えておきます。

以上のことから、受験対策には勉強方法、勉強時間だけに重きを置くのではなく、睡眠のスケジュールも作成し、それに沿って勉強方法、勉強時間を決めていくことが大切です。是非実践してみてください。

英検～それは英語の実力証明～

来月10月9日(日)に本校を準会場として英検が実施されます。資格・検定は実力水準を証明するものですが、総合型や学校推薦型を中心に入試で英語資格・検定を評価する大学も少なくありません。以下ほんの一例ですが、

【出願資格として】 埼玉大学経済学部経済学科 [総合型]英検 CSE1950 点以上

【得点換算／試験免除】 金沢大学の法・医・薬学類を除く全学類

[一般選抜]英検 CSE1950 点以上(換算基準は非公表)

【加点】 千葉大学国際教養学部国際教養学科 [一般選抜]英検 CSE2180 で20点加点

努力して実力がついて入試は不確実です。その点、英検を頑張れば確実性が増すというのであれば、実力アップをかねて大いにチャレンジしてみてもいいのではないでしょうか。